

2021年11月22日 日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

1. 営業状況

・放送収入

2021年度の4月から9月の半年間、また10月もタイム・スポットいずれも前年同期を上回り、順調に回復している。昨年11月に新しい成長戦略を打ち出し、収支構造の抜本的な見直しに取り組んできた改革の成果が出てきている。

2021年度の経営方針では、コロナ禍に負けない経営を目指していくことを打ち出した。年明け以降もこの調子で乗り切っていきたいと考えている。

・放送外収入

夏から公開中の映画「竜とそばかすの姫」は興行収入65.3億円（11月22日時点）まで伸び、先月公開した「そして、バトンは渡された」も現在興行収入10.8億円で、非常に評価の高い作品となっている。

イベントは「バンクシーって誰？展」、「庵野秀明展」がいずれも目標を上回るペースを推移している。

海外事業部（IBD）ではドラマの海外リメイクが2つ決まり、「Mother」のフランス版と、「あいのうた」のトルコ版が放送を開始した。海外でのドラマのリメイクに、引き続き力を入れていきたい。

2. 質疑他

Q. 2021年の振り返り

A.

2021年はコロナとの戦いに明け暮れた一年だった。テレビ局はコロナの影響で番組制作など大変厳しい制約を受けたが、制作現場は其中で非常に頑張ってくれた。

特にコロナ禍で迎えた東京オリンピック・パラリンピックは、無観客開催という会場もあり、どうやって魅力を伝えるか、われわれも工夫が求められた。テレビというメディアが視聴者に映像を届けるという意義は、非常に大きかったと考えている。

来年も工夫を凝らして多くの視聴者の方に支持していただけるような、番組・映画・イベントを提供していきたい。

Q. サステナビリティポリシーについて

A.

日本テレビグループが一体となって、2030年のSDGs達成に貢献するべく、当社グループが取り組む6つの重要課題と目標を設定した。専門部署であるサステナビリティ推進事務局を中心に、この課題に積極果敢に取り組んでいく意思表示である。

Q. 今年の年末特番について

A.

コロナとの戦いに明け暮れた一年だったので、大晦日はぜひ笑って過ごしていただきたいというわれわれの強い思いを、視聴者の皆さまにお届けしたいと思っている。

Q. 箱根駅伝と高校サッカーについて

A.

箱根駅伝は、関東学生陸上競技連盟が定めた『新型コロナウイルス感染防止対策』を順守して放送する。高校サッカーについても、国や主催自治体からのイベント制限要請を総合的に判断しながら、観客制限の有無など、主催3団体（日本サッカー協会・全国高等学校体育連盟・民間放送43社）で協議をして決めていく。観客の制限にかかわらず、放送は例年どおり行う。

Q. 日テレ系ライブ配信について

A.

10月31日の衆議院選挙特番で日テレ系ライブ配信を実施した。再生数が非常に多かった。国政選挙という国民の関心が高い生放送であり、同時配信に再生需要があったものと考えている。こうした結果を参考に、今後も取り組んでいきたいと思っている。

高校サッカーもTVerとインターネットメディア・スポーツブルで全試合無料ライブ配信をする。箱根駅伝については番組ホームページ、およびTVerでライブ配信の実施を予定している。

（了）

杉山 美邦	代表取締役 社長執行役員
福田 博之	取締役 常務執行役員
沢 桂一	取締役 執行役員